



## 「エリアスタディおよび Jr. 課題研究全体発表会」が開催されました

2月7日（金）に、中学校体育館で、中学1・2年生の総合的な学習の時間「エリアスタディ」及び中学3年生の総合的な学習の時間「Jr.課題研究」の全体発表会が実施されました。代表計10組が、1年間の学習活動の成果をそれぞれ口頭発表しました。

「Jr.課題研究（サイエンス）」で発表した「目の錯覚アート」と「摩擦力と液体の関係性」の班では、自分達で仮説を設定し、実験や調査によって仮説の検証を試みていました。仮説の設定や実験・調査による検証は、一度で予想通りにうまくいくことはなかったと思います。この学習経験を高校での「課題研究」や「探究活動」に活かしてほしいと思います。

### 「エリアスタディ」発表テーマ

- 中学1年生
  - 佐賀を観光地にするには、まず、空港を！
  - ラムサール条約に登録された東よか干拓はどう凄いのか？
  - なぜ佐賀県は他県から魅力がないといわれるのか
- 中学2年生
  - なぜ邪馬台国論争は未だに決着がつかないのか
  - 広島市が国際平和観光都市になるまで
  - 藩校の今

### 「Jr.課題研究」発表テーマ

- 中学3年生
- サイエンス
  - 目の錯覚アート
  - 摩擦力と液体の関係性
- グローバル
  - 女の子が学校に行けない理由～男女差別と学校教育の現状～
  - 海洋問題とプラスチック～課題を理解し私たちにできること～

## ループリックに新しい観点「失敗から学ぶ力」が加わります

本校SSHの取組では、「新しい価値の創造に向けて挑戦する科学的人材」の育成を目指しています。この人材育成のための主な取組が、教科「SSH」での理科科の課題研究や普通科の探究活動です。

みなさんは、課題研究や探究活動で、以下のような経験はありませんか？

- 実験や調査をしている途中で、自分達で設定した仮説がそもそも検証不能であることに気づいた。
- 実験や調査をしながら、仮説検証のための対照区を設けていなかったことに気づいた。
- 途中で、実験方法が適切でないことに気づき、実験データが意味を持たないことに気づいた。
- データをまとめて考察をしている途中で、自分達の研究内容がすでに発表されていたことを知る等、先行研究をもっと調べてから研究計画を立てればよかったと思った。等

このような気づきに至ったとき、つい実験や調査を失敗したと思いがちなものです。ですが、いったん実験や調査の手を止め、自らの行為や経験・出来事の意味を俯瞰的・多様な観点から振り返って、今後の教訓を作り出し、その教訓をすぐに活用すれば、それは失敗ではなく「学び」となるのだそうです。本当の失敗とは振り返ることなく、経験から学びとろうとしないことなのかもしれません。

令和2年度4月から、教科「SSH」の全科目及び併設中学校の教科「探究基礎」のループリックの「学びに向かう力・人間性等」に観点「失敗から学ぶ力」を新しく設けることとなりました。課題研究や探究活動で行き詰ったと感じたとき、そこまでの取組を振り返って「学び」を深めていきましょう。

観 点	学習到達レベル			
	S	A	B	C
失敗から学ぶ力 *学習活動を通して失敗した経験を裏面に書いてから回答すること。 *失敗したことをもって成績評価を下げることはありません。	課題研究で自分が失敗した事実をもとに原因や理由を書くことができ、 <b>再びする場合の具体策や教訓も書くことができる。</b>	課題研究で自分が失敗した事実をもとに原因や理由を書くことができるが、 <b>再びする場合の具体策や教訓は書けない。</b>	課題研究で自分が失敗したことを振り返るが、 <b>自分を責めるまたは他者を攻撃するように主観的に書いてしまう。</b>	失敗に目を向けることができず、課題研究で自分がどんな失敗をしたかを振り返って書くことができない。